

だん かい

団塊世代の ブームとクルマ

期間 2008年10月15日(水)～2009年3月29日(日)



1 プロローグ & First WAVE 若者文化の担い手となった団塊世代 (1960～70年代)

最初のゾーンでは、プロローグとして団塊世代の少年・少女時代を、懐かしいテレビドラマ「月光仮面」にちなんで展示。First WAVEでは、1960年代の担い手となった団塊世代を主テーマに展示。



月光仮面のコスプレ
自由に「正義の味方」に
変身できるコーナーを設置。

大阪万博ポスター&グッズ



東京オリンピックのポスター
(アドミュージアム東京より借用)



大鷲、柏戸の対戦
昭和37年名古屋場所
あなたは、大鷲派？ 柏戸派？

ソニーダイオード式電卓
ICC-500 (1967年)
この時代の電卓はこんなに大きく(大きさ40×25×15cm)、価格は実に26万円。



▲ヤマハYA-1型バイク (1955)



▲スバル360 (1958)



▲トヨタカローラ (1966)

2 Second WAVE ニューファミリーを形成した団塊世代 (1970～80年代)

Second WAVEは1970年代から80年代にかけて団塊の世代がいよいよ社会人となり、消費志向の強い文化とともにニューファミリーを形成していった姿を紹介した。



奥/ホンダシティカプリオレ (1986)
左手前/ニッサンシーマ (1998)
右手前/トヨタクラウン (1983)

70年代の若者文化

70年代メイドインジャパンの文化



映画「男はつらいよ」右より第1作～3作ポスター



ファミリー・エンタテインメントの時代へ
テーブルゲーム機
(西尾市のゲーム博物館より借用)



新世代マンガ & アニメ文化



ミニ四駆&ガンダム



まんが
当時の「りぼん」や「チャンピオン」などを
展示。自由に読んでもらうコーナーも設置。

80年代 ブランド 文化



DCブランド&ボディコン
当時はこのような
ファッションが流行。



洞爺湖サミット記念ポスター
全25点を11月16日(日)まで展示。
全部で3セットしかない貴重なポスター。

今回の企画展では、昭和を駆け抜け、時代をリードした団塊世代の学生時代から、定年退職を迎える現在までを、3つのWAVEに分け紹介。各WAVEのおもなブームを通じ、団塊世代の価値観や生活スタイルがどのようにクルマやクルマ文化に影響を与えたかを車両をはじめ、実物や写真、ポスター、文献、映像など多数の資料で振り返った。

また、この時代に一世を風靡した憧れのスーパーカー「ランボルギーニ」を新館1階大ホールで特別展示した。さらに、特別イベントとして、学芸員の展示説明会や、名古屋外国語大学音楽サークルによるグループサウンズ&フォークコンサートも開催した。

Third WAVE & New WAVE

3 団塊世代がつくる新しい大人文化 & 新しい世代のマイナーな文化 (1970~80年代)

1990年代から現在までのゾーン。バブル崩壊を乗り越えて、人生の豊かさにトライする「団塊世代が創る新しい大人文化」と、彼らの二世である団塊ジュニア世代がつくり出した「新しい世代のマイナーな文化」とを対照させ展示。

新しい世代のマイナーな文化



▲ i-unit (2005)



トライの木
来館者をご自身のトライを書き、「木」に飾るコーナー。

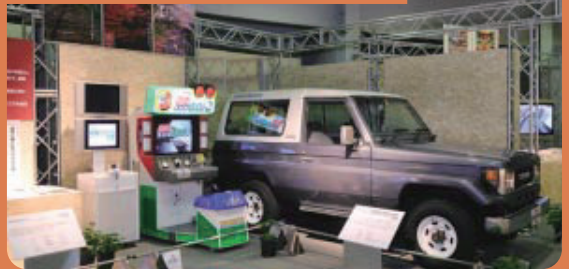


マイルームの再現



俺キーワードとした商品 i-mode、i-Mac、iPod。

団塊世代が創る新しい大人文化



▲トヨタランドクルーザー(1986)



電車でGO
(タイトーより借用)

愛・地球博グッズ
2005年に行なわれた
愛知万博のグッズを展示。



映画「ALWAYS 三丁目の夕日」

特別展示



▲ランボルギーニカウンタック・アニバーサリー(1989)



▲ランボルギーニミウラP400(1968)

特別イベント



学芸員による展示説明会



名古屋外国語大学 軽音楽サークル「ソックスノビート」によるGS&フォークコンサート。

企画展!



来場者を直撃レポート!!

今回の企画展を見られたご感想を聞かせてください!
加藤正明・志起子様ご夫婦(愛知県瀬戸市)

トヨタ博物館へは今回初めて来ました。ちょうど今日の新聞にこの企画展のことが掲載されていたので、来館しました。思い出のクルマはスバル360です。当時5、6年乗りました。

家族と一緒に過ごした思い出の1台です。今日はそのクルマが見られて嬉しく思いました。またぜひ遊びに来たいです。



Back

Next



トヨタ博物館 クラシックカーフェスタ in 神宮外苑

日時 2008年11月29日(土)・30日(日) 10:00~16:00

会場 明治神宮外苑 聖徳記念絵画館前(東京都新宿区霞ヶ丘町)

クラシックカーパレード(29日)

オープニングセレモニーではご来賓を代表して日本クラシックカークラブ会長の小林彰太郎氏をご挨拶を下さいました。続いて約80台の参加車両のオーナーは和田篤泰氏所有の1910年式ロールスロイスを先頭に、原宿から渋谷方面への約15kmの公道パレードに出発しました。パレードには俳優の唐沢寿明さんも「トヨタ 2000GT Speedster」で特別に参加しました。



参加車両展示



トヨタAA型乗用車

トヨタ博物館
展示車両



クラシックカー展示

トヨタ博物館所蔵車6台と一般参加車両約100台を展示しました。また、特別に国立科学博物館より1999年に共同でレストアを実施したオートモ号を借用し、展示しました。



オートモ号

学芸員による車両解説



ステージプログラム

パレードにも参加した俳優の唐沢寿明さんのトークショーには大勢のファンが詰めかけました。小学生の頃にスーパーカーに憧れたことや、好きなクルマは2000GTと応えるなど、大いに盛り上がりました。



キッズエリア

フォルクスワーゲンのバンタイプを模したペダルカーも登場！写真撮影コーナーやクラシックカー塗り絵も開催しました。



ボンネットバス同乗体験

1965年式のいすゞボンネットバスの同乗体験を実施。当時を思わせる制服姿の車掌さんの案内で、会場周辺や青山方面へのドライブを楽しみました。



クローージングセレモニー



キャデラックシリーズシックスティスペシャル

1938年（アメリカ）

● 長×幅×高：5264×1978×1679mm ● 軸距離：3226mm ● エンジン：V型8気筒L型ヘッド 5670cm³ 135hp {99kW} / 3400min⁻¹



時代を先取りするスタイルで登場

キャデラック社は1902年に精密工作の権威として知られていたヘンリー・マーチン・リーランドによって創立された。同社は1909年にゼネラルモーターズ（GM、今年創立百周年）に買収され、以後GMの高級車部門として現在に至っている。

シリーズシックスティスペシャル（以後60Sと表記）は、キャデラックのエントリーモデルのシリーズシックスティをベースにして1937年秋に誕生したフルサイズモデルである。

60Sについて調査してピンとこないことがあった。それは、当時60Sのスタイルが「かつてないモダンなもの」、あるいは「超近代的なシルエット」と評されていたことだった。それは60Sと同時代の

他車のスタイルを比較することで理解できた。60Sが採用したスタイルの新しい部分はその後一般化したものであったこともわかった。すなわち60Sを境に乗用車のスタイルが顕著な変化をしていったのだ。そこで本稿では60Sのスタイルの特長を中心に説明する。

① 低い車高とフラットなルーフ

車体の構造的な変更により、室内高を犠牲にすることなく車高が他のキャデラックに比べて76mm低くされ、それまで丸みをつけられるのが普通だったルーフをフラット気味にした。

② ボディに完全にビルトインされたトランク

60S以前にもビルトイントランクを持つセダンは見られたが、いずれも後付け

的な印象があった。それに対し60Sは全体のボディに融合した違和感のないデザインを採用した。

③ ランニングボード（サイドステップ、サイドボード）を排除

1930年代後半に入るとランニングボードはだんだん幅が狭くなり、その分ボディの幅が広がってきていたが、60Sはランニングボードを完全に無くした。

④ 4ドアとも前ヒンジ後ろ開き

それまで4ドアセダンのリアドアは後ろヒンジ前開きが一般的だったが、60Sは前ヒンジ後ろ開きにした。ランニングボードを無くしてボディ幅を広げて、リアフェンダーの張り出しが小さくなったことも後ろ開きドアの採用を可能にした一因と考えられる。リアフェンダーの張り出し

Cadillac Series 60 Special

キャデラック シリーズ シックスティ スペシャル [1938年  アメリカ] 山田 耕二



が大きいと、後ろ開きドアでの乗り降りがしにくい。

⑤ サッシタイプドアガラスフレーム（枠）と4ドア4ライトスタイル

従来のセダンのドアパネルはドアガラスのフレーム部分まで一体だったが、60Sは細いサッシタイプのドアガラスフレームを採用した。これにより各ピラーが細くなり、従ってガラス面積が増え、車内からの視界が広がると同時に外観の印象も軽快になった。4ドア4ライトとはサイドウィンドウの構成が片側2枚ずつのスタイルのことだ。60Sはリアピラーのトランク部分へのつなぎに明確な段をつけてリアピラーをあまり傾斜させず4ドア4ライトスタイルとした点が新しかった。今で言うスリーボックススタイルである。

⑥ サイドモールディングの排除

当時の乗用車はボディサイドのベルトライン近辺に、前後に走るメッキモールディングやプレスラインを設けるのが一般的だった。それはボンネット部分と

キャビン部分の一体感を強め、また、横から見たときの車高を低く見せる効果をねらったものだった。60Sの新しいスタイルはそれを採用する必要はなかった。

キャデラックの公式ウェブサイトを開くと「**キャデラックの成功は、車の製造ビジネスという面で捉えたあらゆる要素を勘案しても、デザインの役割による**ところが非常に大きいと言えるでしょう。」という一文がある。その最初の功労者はハーリー・アールで、2人目はアールがその才能を見抜いて1935年に採用した23歳のビル・ミッチェルだ。その若きミッチェルが1938年型60Sのスタイリングを担当した。ミッチェルの時代を先取りしたセンスには驚かされる。

実はよく観察すると、60Sの基本デザインは1930年代後半の4ドアコンバーチブルセダンのデザインをスチールルーフのセダンに応用したものだといえる。4ドアコンバーチブルセダンのサッシタイ

<参考文献>

- ① 「standard catalog of AMERICAN CARS 1805-1942」 Krause Publications
- ② 「standard catalog of CADILLAC 1903-1993」 Krause Publications
- ③ 「80 YEARS of CADILLAC LA SALLE」 Walter M. P. McCall Crestline Publishing
- ④ 「アメリカ車の100年 1893-1993」 ニック・ジョルガノ著 原紳介訳 二玄社
- ⑤ 「週刊MOTORCAR 第15号」 株日本メール・オーダー

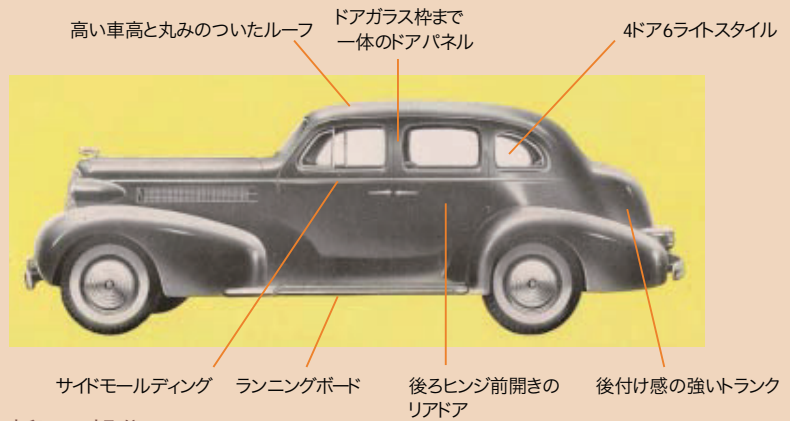
ブドアガラスと細いピラーによる軽快な印象をそのままセダンに取り込んだのが60Sだ。オープンカーのイメージを快適な屋根付き自動車に結びつけたわけである。後に同様のことが2ドアコンバーチブルでも起きていて興味深い。2ドアコンバーチブルの幌をいつも上げたままで乗っている女性がいた。ビュイック（キャデラックに次ぐGMの高級車ブランド）の製造課長の妻だった。それをヒントに、2ドアコンバーチブルのスタイルをスチールルーフに変えて誕生したのがセンターピラーのないハードトップ（1949年型ビュイックロードマスター）で、それはすぐに人気のボディスタイルとなり、やがてアメリカの乗用車を支配するスタイルとなっていく。ビル・ミッチェルはその後の乗用車のスタイルを決定づける要素を60Sに採用したのである。

60Sの1938年型は1937年10月から基本価格2090ドルで発売され、他のキャデラックのどのモデルよりたくさん売れて成功したモデルとなった。ちなみにGMの大衆車シボレーの4ドアセダンは730ドルだった。エンジンはキャデラックの標準エンジンであるV8・346立法インチ（5670cc）・130馬力（96kW）を搭載した。1939年型ではフロントグリル部が横方向に拡大され、次のデザインを示唆するものとなった。1940年型はオプションで選べたサイドマウントのスペアタイヤがこの年式限りとなった。初代60Sの最後となった1941年型は、このシリーズで一番美しいモデルだと言われている。フロントまわりが整理されて格子タイプのモダンな横長グリルが採用され、それは全体のボディにうまく融合した。このグリルは“エッグクレイト”（卵かご）と呼ばれ、以後キャデラックのアイデンティティとなる。

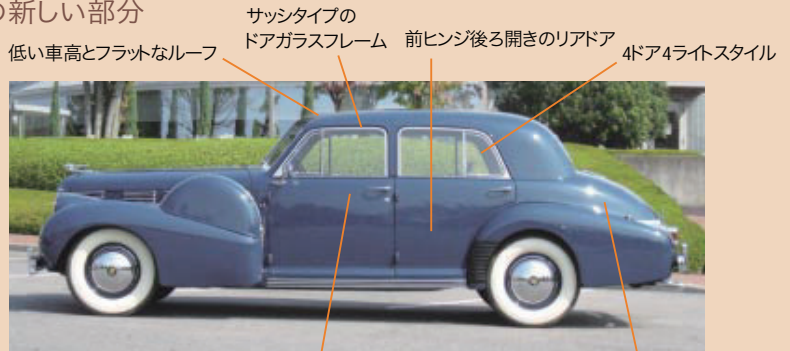
1938年型から1941年型まで造られたシックスティススペシャルは十数台のカスタムボディモデルも入れて約17900台に達した。

60Sに採用されたデザインの特徴で初めてというものはなかった。個々にはすでに見られていたものをビル・ミッチェルは乗用車の基本ボディタイプである4ドアセダンにうまく取り入れて新しいスタイルを作り出した。そしてその60Sは他のすべての乗用車を時代遅れに見せてしまうほどの傑作になったのである。

60S登場前の乗用車の一般的特徴 (写真は1937 Cadillac Series 60)



60Sの新しい部分



ギアシフトレバーをフロアからステアリングコラムに移動した最初のモデル



1936年型キャデラック60 4ドアコンバーチブルセタン
サッシタイプドアガラス、前ヒンジ後ろ開きドア、4ドア4ライト、後ろに張り出したトランクなどが60Sに取り込まれた。



1939年型の60S
1938年型から1941年型への過渡的なデザインであることがわかる。サイドマウントのスペアタイヤのオプション設定は1940年型まで。



1941年型の60S
初代60Sシリーズの中で最も美しいモデルと言われる。ボンネット部と左右のフェンダー部が違和感なく一体化し、ヘッドランプがフェンダー前端に埋め込まれ、フロントグリルは横長となりパターンも横基調となった。

寡黙な助演しゃ…クルマ

映画字幕翻訳家

戸田 奈津子さん

ん 津 子



▼戸田 奈津子(とだ なつこ)

東京都出身。津田塾大学英文科卒業。第一生命保険相互会社を経て、フリーで翻訳・通訳の仕事をはじめ。1972年「小さな約束」で映画字幕デビュー。フランシス・コッポラ監督作品「地獄の黙示録」の字幕を監督の推薦で担当し、映画字幕翻訳の第一人者として認知され、現在も年間数十本の字幕をこなし第一線で活躍。名だたる映画監督・俳優に知己多く、公私に渡り信頼度も高い。

映 画字幕の仕事を目指し、アルバイトをしていた大学卒業後の二十歳代中ごろに、運転免許を取りました。免許を取ればクルマが欲しくなり、中古のダットサンだいたいを買いました。見かけはきれいな橙色でしたが古かったのでジワジワと雨が漏りました。運転を始めた頃の頃、乃木坂でまわりが混んでいて動くことができず、都電と接触事故を起こした事がありますが、それが私の一番大きな事故です。ダットサンの後は、ベレット、マークII、クラウンと乗り継ぎ、特にこれといった不満も無く、クルマが無かったという期間もありません。2年前、10年間程使用したBMWのエアコンが故障したのを契機に、レクサスを購入しました。ワインレッドのボディカラーが気に入るので決めました。エンジン音も静かで、サービスも何かあるとすぐに対応してくれます。レクサスでは一度箱根にドライブに行っただけで、忙しいため遠出は出来ず、近くに買い物に行くといった使い方ですから、走行距離も2年間で3万キロとあまり運転していません。しかし、ドライブは嫌いじゃないので、タクシーで移動した方がずっと経済的なのですが、自分で運転します。クルマそのものへの興味は、メカ等もわかりませんし、自分のクルマの名前がわかるといったレベルです。

ヨ ーロッパをドライブ旅行するのが好きで、一年に一度位は出かけていました。十日間程かけて好きな所をレンタカーで廻るといふスタイルで、十年以上に渡りそんな旅行をしていました。旅行では大まかな目安はつけますが、細かな予定は立てないで自由で気儘に旅を楽しんでいます。目的地を決めるとそこまで行かなければならないので、日が暮れると焦りが出てきて危ないのです。朝ホテルを出て着いた町を楽しみ、日が暮れる頃、ある町に着くとそこで泊まるというスタイルです。欧州の町は、駅前に商店街があってどこでも似かよった日本の町たなずと異なり、それぞれの町の歴史、佇まいかまを醸し出して個性があります。

フランスやイタリアでは、大都会を出れば田園地帯で、田舎の町並みは全く中世というイメージに住んでいる人々が維持しているのです。国もそれを法律でバックアップしています。若い頃は1日500km以上走ってフランスを横断するようなことをしましたが、今ではのんびり観て周る旅行の方が楽しいというように嗜好も変わっていきます。随分と無謀だったと、今思い返せばゾッとすることもありますが、幸いにして、旅行中に危険な目に遭ったり事故を起こしたことはありません。ヨーロッパでは、レンタカーはフロアシフトのマニュアルが主流ですが、私はそういう車をずっと一人で運転します。10分もすればマニュアル車の扱いも左側通行も慣れます。母親と一緒に二人きりで旅行することが多いのですが、参加者が増えて4~5人の時もあります。状況により、荷物の多い少ない、参加人数などを基準にして、機能面からどのレンタカーに選びます。参加希望者が増えて大勢で旅行するときは、大型バスを運転手付きでチャーターしたことも何度かありました。楽チンで、一人当たり1万円程度で済みます。太陽が豊富で陽気、食事も美味しく、生活感もある、フランス、イタリア、スペインのような南ヨーロッパが好きなので、どうしても南の方に行ってしまう。

カ ーアクションの場面は多くの映画で見られますが、クルマはアクション映画になくはならない道具でしょうね。「007」最新作は、カーアクションシーンから始まります。イタリアの海岸線でのアストンマーチンとアルファロメオのカーチェイスは見ものです。カーアクションは手を変え品を変えあまりにもいろいろな映画で出てきますが、他の映画とは違うスリリングなシーンを撮るために映画の現場では本当に工夫しています。また、映画の中には、クルマを見るとあの時代だというのがわかる映画がたくさんあります。「アンタッチャブル」のような時代設定の映画は、クルマだけで「1920年代

のアメリカ」を出しています。またエルヴィス・プレスリーの映画といえば、クローム飾りがゴテゴテに付いている50年代、60年代の「アメ車」のイメージがオーバーラップします。アメリカ映画は常にその時代の車が背景の景色のなかにあるのです。個人的な思い出では、親しくしているリチャード・ギアのお宅に泊めていただいた時、彼が真っ黒なスポーツタイプのジャガーで迎えに来てくれました。もちろん超カッコよくて、何だかその時だけ、映画の登場人物になったような気がしました!

観 客として映画を観るならば、人間を描いたドラマが好きです。余韻が残り、後で噛みしめられるような映画ですが、最近は少ないと思います。クルマに求めることも同じようなものです。故障しないこと、走る、止まる、安全といった基本的な要件が満たされているのはもちろんですが、機能性とか合理性だけのクルマでは味気ない気がします。全部電子制御になってしまうのではなく、緊急時には手動で窓が開くとか、命に拘わるところは配慮が必要でしょう。ものごとにはバランスが大切で行過ぎてはいけないと思います。私はマニュアルの車が好きですが、ギアチェンジする時に人間のいいないとな営みが入る余地が出てくるからかと思います。字幕以上に言葉にするのは難しいですが、多少無駄でも遊びの要素も入っていて、人間のタッチ、暖かみが伝わってくるような、そんなクルマが良いなあと思います。



クラシックカーの
運転席廻り(8)

フィアット500 トップリーノ

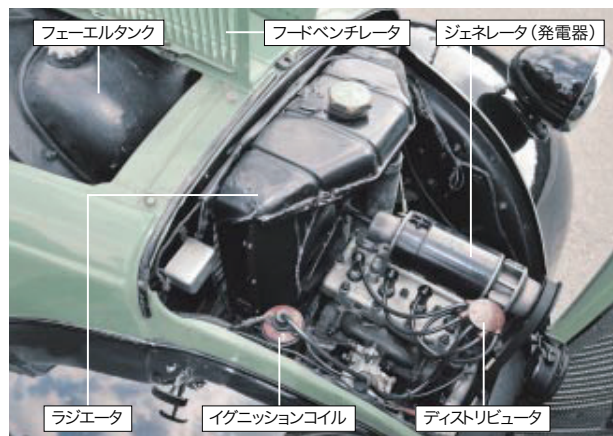
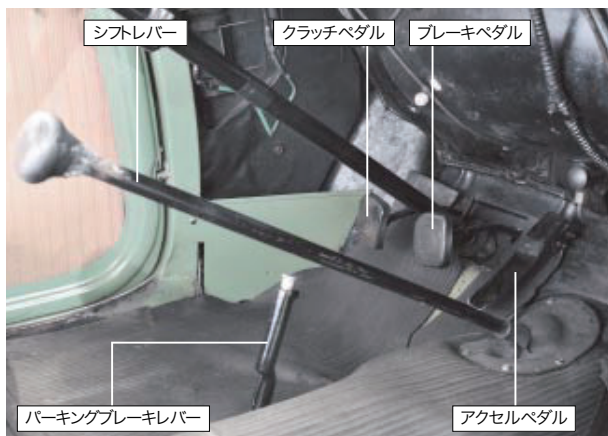
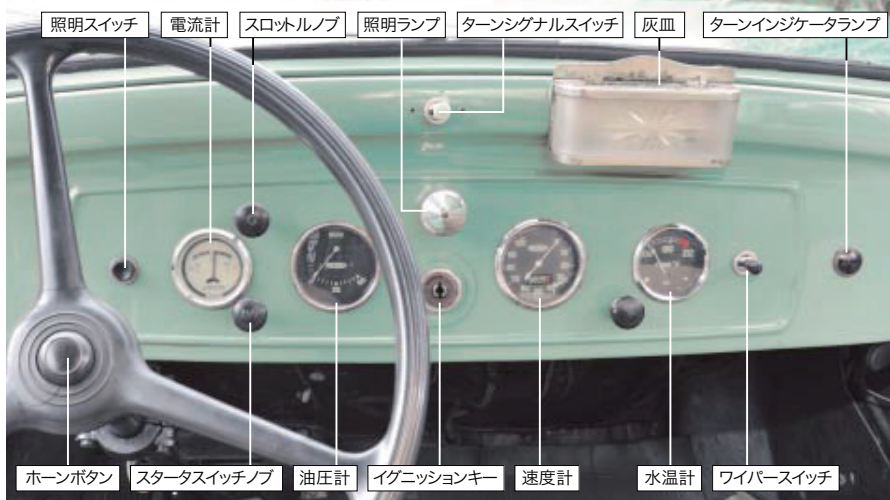
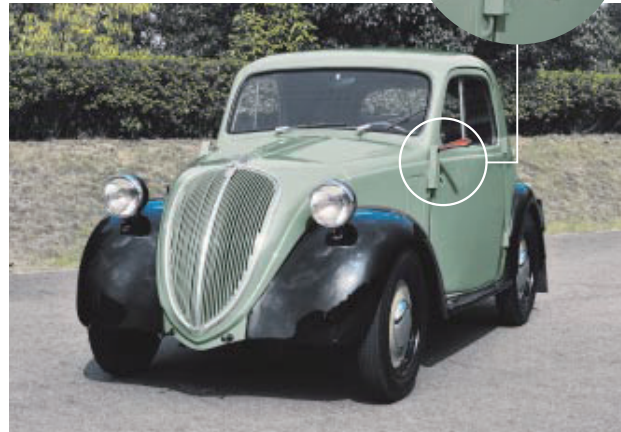
Fiat 500 "Topolino"

展示場では見にくいクラシックカーの運転席廻りの操作装置や計器類についてご紹介します。

今回は、フィアット500 トップリーノ(1936年 イタリア)です。形が小ネズミのようにかわいいことから“トップリーノ”というニックネームで親しまれ、後にイタリア中を走り回る“フィアット500”は1936年に造られました。エンジンを前車軸より前に置き、その上にラジエータを配置、さらにその後にフューエルタンクを置くことで、小さなボディながら十分な室内スペースを確保しています。さらにフロントの独立懸架や4輪油圧式ブレーキなど大型車とかわらない贅沢なメカニズムを備えた本格的な小型車でした。

フィアット500を設計したのはダンテ・ジアコーサで、ミニの設計者アレックス・イシゴニスと並び称された人です。屋根をオープンできるタイプのトップリーノは、オードリー・ヘップバーンが主演を演じた「ローマの休日」で脇役として登場しました。

- エンジン型式：水冷直列4気筒サイドバルブ
- 総排気量：569cc
- 車両重量：507kg
- 変速機：前進4段、後退1段MT(フロア)
FR駆動方式
- 12ボルト仕様



今回は、米日を代表する、共に軍用モデルベースの高性能四輪駆動車、GM・ハマーH1とトヨタ・メガクルーザーのカタログをご紹介します。

清水 道明

GM・ハマーH1

ハマーH1は、ハマーブランドのオリジナルモデルで、湾岸戦争で一躍有名となったアメリカ軍の軍用車、通称ハンヴィー (Humvee) のシビリアン (民生用) モデルです。

ベースのハンヴィーはAMジェネラル社が生産するHMMWV (High Mobility Multipurpose Wheeled Vehicle) = 高機動多用途装輪車両、M998四輪駆動軽汎用車とその派生型で、1985年からM151ケネディジープの後継車両として配備されました。

1992年のハマーH1市販化にあたっては、現米国カリフォルニア州知事、映画俳優のアーノルド・シュワルツェネッガー氏の働きかけがあったとされます。実際、彼は市販第1号のオーナーであり、一時は3台ものハマーH1を所有したと言われます。(6台という説もあり)

一般的なステーションワゴンの他、4ドアオープン、2ドアピックアップ、希少なスラントバックなど、多くのボディバリエーションが存在します。

走行中にも車内からタイヤ空気圧を自在に調整できるCTIS (Central Tire Inflation System) を備えるなど、ミルスペックそのままのオフロード性能と高い耐久性、類まれな独特のルックスで、オフロードファン、ミリタリーファンのみならず、多くの芸能人、セレブリティをも惹きつけました。

2006年に生産終了となりましたが、軍用ハンヴィーの生産は継続されています。

トヨタ・メガクルーザー

1993年の第30回東京モーターショーで参考出品され、1996年1月に発売された多目的車で、陸上自衛隊採用の高機動車の民生版です。

ベースとなった高機動車は、1993年から配備され、主な用途は普通科歩兵一個班 (10名) の移動のための兵員輸送であって、基本的に非装甲車両です。

発売時には、その軍用車ベースという成り立ちや大きさ、外観から「和製ハマー (H1)」とも呼ばれましたが、開発の主眼は災害時の救援や人命救助などの業務用途であって、いわゆるSUV的なクルマではありません。主なユーザーも、販売が落ち着いてからは、JAFや消防、自治体となりました。

5090mmの全長はまだしも、全幅2170mm、ホイールベース3395mmもある巨体ですが、リアにはハマーにはない最大12°の逆位相4WS (4輪操舵) を装備しており、最小回転半径はハイラックス・サーフ (5.7m) より小さい5.6mに抑えられています。因みにハマーH1は8.1mにも達します。

また、ギヤを介してハブを駆動することでドライブシャフトの上方オフセットを可能としたハブリダクション機構を採用し (ハマーH1も同機構)、37インチの特殊サイズ大径タイヤとあいまって420mmという圧倒的な最低地上高を確保しています。

加えて、リアのみながら、ハマーH1と同様の、タイヤの空気圧を2段階に減圧できるタイヤ空気圧調整装置をオプションで備え、高い不整地走破性能・登坂性能を誇ります。

2001年8月に生産終了となりましたが、こちらも、自衛隊向け高機動車の生産は継続されています。



4-Passenger Wagon.
最低地上高は16インチ (406mm)

4-Passenger Open Top.
フロントガラスは2分割式

ラジエターが傾斜して搭載されている



フロントガラスは一枚ものでワイパーは3本

4WS機能により後輪が前輪とは逆方向に操舵されているのがわかる

大きなボディの割にはコクピットはタイト。運転席というより操縦席?

- < 主な参考文献 >
- ・世界の主力軍用車 (2003) 三修社
 - ・4×4MAGAZINE (1996/3、4、5、9) フォーバイフォーマガジン社
 - ・CAR and DRIVER (1996/4/10) タイヤモンド社
 - ・NEWS from TOYOTA1996 No.3 (1996/1/9) トヨタ自動車 (株)

オーナーズミーティング

10月から11月にかけて10回のオーナーズミーティングが行なわれました。
オーナー間で楽しそうにそれぞれ交流を深めていました。



プレサージュ
10/12



アジョー206
11/16



ポルシェ911
11/2



アルファロメオ
11/16



メルセデスベンツSL
11/3



トヨタランドクルーザー
11/16



bB
11/9



スカイライン
11/16



シボレーコルベット
11/9



ノア
11/23

ホームページとブログのご案内

トヨタ博物館のホームページやブログでは、当館の活動、展示内容、イベント、最新ニュースをきめ細かく、タイムリーに紹介しています。

ホームページ： <http://www.toyota.co.jp/Museum/index-j.html>

ブログ： <http://gazoo.com/G-Blog/tam/index.aspx>

バックヤードツアー、T型フォード運転講習会の募集、エンジンパフォーマンスのスケジュールもご案内いたします。是非ご活用ください!

小学生受入れ 特別プログラムの開始

今年より小学校5年生の校外学習の受入れ特別プログラムを開始しました。内容は、世界初のガソリン自動車「ベンツパテントモートルヴァーゲン（1886 ドイツ）」の車両説明と走行披露です。現在までに17校1617名の小学生を受け入れました。



“自動車の達人”が館外授業を実施

愛知県教育委員会が実施している「その道の達人」派遣事業に、当館の山田学芸員が“自動車の達人”として10月7日（火）に新城市の庭野小学校で授業を行いました。T型フォードの実車を持ち込んでの授業に生徒たちは興味を持って耳を傾けてくれました。



バックヤードツアーを開催

10月の毎日曜日に秋のバックヤードツアーを行ないました。車両収蔵庫にあるおよそ70台の珍しいクルマ達を前に、参加者は興味深げにスタッフの話に耳を傾けていました。次回は来年春を予定しています。



T型フォード運転講習会を開催

10月2日、16日、30日の木曜日にT型フォード運転講習会を行ないました。2003年から行なっているこのイベントは16日で参加者100人を達成しました。今後ともホームページでご案内いたしますのでふるってご応募ください。



秋まつりを開催

10月11日（土）から13日（月）に「トヨタ博物館 秋まつり」を開催しました。風船を使ったクルマ作りやクイズ大会など、子ども達は楽しく参加していました。



エンジンパフォーマンスの開始

本館前で所蔵車両のエンジン音を楽しんでいただく「エンジンパフォーマンス」を始めました。スケジュールは当館ホームページより随時お知らせします。



「コルモラーニ岐阜」に車両出展

10月18日（土）、19日（日）に岐阜のメモリアルセンターで開催された「コルモラーニ岐阜2008」に当館からメルセデスベンツ300SLとシボレーコルベット、TS010、セリカST185の4台を出展しました。元トヨタワークスドライバーの細谷四方洋氏の解説やTS010、セリカST185の2台のエンジンパフォーマンスも行いました。



GAZOOに動画掲載

当館所蔵車両の2000GTボンドカー、トヨタスポーツ800、セリカ1600GT、初代クラウン、ギャランGTO、コスモスポーツ、ホンダS800の動画がWEBページGAZOOに掲載されています。解説はモータージャーナリスト熊倉重春氏。各車の個性が良くわかり、一見の価値があります！

<http://gazoo.com/Movie/MovieList.aspx>



図書室よりお知らせ

図書室では「T型フォード100周年記念コーナー」を設けています。T型フォードの本に加え、当館の展示監修を務めた五十嵐平達氏秘蔵の「T型フォードの写真」も展示しています。

曜日によっては当館スタッフが質問にお答えする「山村おじさんのT型フォード話」も開催していますのでぜひお立ち寄りください。



◀山村おじさん

ギャラリー展を開催

10月15日(水)から12月21日(日)までギャラリー展「AUTOMOBILE ART」を開催しました。

12人の作者による車をモチーフにした作品展で、表現はイラスト、切り絵、モデルカー等様々で、90点を展示しました。



MG-J2 (1932年)

日比野 富博さん(愛知県)

5年程前にイギリスで手に入れました。木骨ボディのためほぼスクラップ状態でしたが、現地で綺麗に仕上げてくださいました。日本に戻ってから車検を取り、エンジンをオーバーホールし、スーパーチャージャーも付けました。このクルマの気に入っているところは、気楽に乗れるところで、買い物などもこのクルマで出かけます。また、ラリー仕様のクルマですが、ダッシュパネルに時計もつけました。そこもお気に入りです。これからも大切に乗りていきたいクルマです。



<参加希望の方は>

愛車の自慢したい文章(200字程度)と写真同封の上、〒480-1131 愛知県長久手町トヨタ博物館 館より係またはアドレス: XK-kandayori@mail.toyota.co.jpに文章と写真を貼付してお送りください。どしどし応募お待ちしております。なお、ご応募いただいた記事内容によっては、掲載できない場合もありますので、予めご了承ください。

タムタムくんの

知ってるかい?
クルマ豆知識



今回は車のミラーについての豆知識を見ていきましょう。

クルマにミラーが付いたのはいつ頃?

1911年開催の第1回インディアナポリス500マイル・レースに優勝したマーモン・ワズプ車にはバックミラーが装着されていました。

その後、1920年代終わり頃からミラーを付けるのが一般的になってきたと言われています。

日本では1951年(昭和26年)に道路運送法、道路運送車両法、道路運送車両の保安基準で右側後方50メートルまで確認できるミラーを装着することが必要になりました。

ショップ情報



■2000GTクッキー 600円(税込)

パッケージがトヨタ2000GTの形をしており、中にはチョコレートと抹茶2種類のクッキーが入っています。お土産にもピッタリで、大人気の商品です。

●お問い合わせ先はミュージアムショップまで
TEL: 0561-63-5161
メールアドレス: museum-shop@toyota-ep.or.jp

[読者の声]

●久々にトヨタ博物館へ行ったところ、目の前に黒いものがあっての行くと、懐かしの「ランボルギーニ・カウンタック・アニバーサリー」でした。スーパーカーはやはりいつ見てもいい物ですね。
(三重県 野崎 修さん)

●各社の車を取上げており、読んでいて嬉しかったです。今度名古屋に行くのでは是非寄ってみるつもりです。
(大阪府 吉野 清さん)

[編集後記]

今年も残すところあとわずかになり、一年を振り返る時期となりました。今年の当館はクラシックカーフェスタなど大きなイベントで盛りだくさんな年でした。引き続きよりよい博物館で皆様にお目にかかれるのを楽しみにしています。来年もよろしく願います。
(加藤千晴)

TAMUZEI

このクルマはなんでしょう?
(本誌に登場したクルマです)



<応募方法>

ハガキまたはEメールにクイズの答え、住所、氏名、年齢、性別、電話番号、意見・感想、本誌をどこでご覧になったかをご記入の上、ご応募ください。

(締切り: 2009年1月31日消印有効)

抽選で10名の方にトヨタ博物館オリジナルグッズをプレゼント。

<送り先>

〒480-1131 愛知県長久手町トヨタ博物館クイズ係

<メールアドレス>

XK-kandayori@mail.toyota.co.jp

●先号の答え トヨタ 2000GT MF10型